

独立行政法人労働者健康安全機構  釧路ろうさい病院

地域医療連携総合センターだより

No.60

- I. 新年のご挨拶
- II. MRI装置の更新について
- III. 登録医・地域医療支援病院の役割について



発行：2019.1 釧路労災病院地域医療連携総合センター

2019 年 新年のご挨拶



病院長 野々村 克也

新年、明けましておめでとうございます。平成最後の年ということで、時の流れを殊更感じさせられるお正月を迎えました。皆様方におかれましても、感慨深く感じる中、気持ちも新たに、健やかな日々をお過ごしのことと存じます。

昨年は大型台風 21 号、24 号の北海道上陸に加え、北海道胆振東部地震、それに続くブラックアウトが発生し、北海道にとって自然大害受難の年でした。釧根地区においても観光の分野での痛手をはじめ、遠くから通院を余儀なくされている患者さんにあつては交通事情の悪化により何時にない苦勞を強いられました。本院は自家発電にて当座の病

院機能の維持が可能でありましたが、改めて、様々な医療技術が電気に依存していることに気付かされました。このような災害にあつても、住民被害を最小限に止めるべく、本院に限らず地域全体のタフな医療環境作りの必要性を痛感しております。救急医療体制に関しましても、昨今の勤務医の減少などにより、その対応に汲々としている状況があります。本院でも若手医師の過剰勤務などを考慮しつつ、少しでも住民の要請に応えるべく、体制を整いつつあります。今後も、医師会・消防隊・他の医療機関との連携を密にし、その充実を図ることが必要と考えております。

本院は地域医療支援病院として、登録医は 190 名を数え、文字どおり地域の医療施設との密接な連携を築いてまいりました。社会は絶えず変化・進歩しております。それに遅れをとらないよう、釧根地区の医療に貢献すべく、これからも絶えず進歩していく病院を目指していきます。

今年は亥年で、「勇気と無病息災」の意味があるそうです。ここ釧根地区は少子高齢化の流れにあつて厳しい医療事情を抱えております。住民の皆様の無病息災を祈念致しますと共に、医療の過疎化に伴う種々の困難に心新たに勇気をもって立ち向かっていく所存です。関係各位の皆様にはより一層ご支援・ご愛顧下さいます様お願い申し上げ、新年の挨拶と致します。

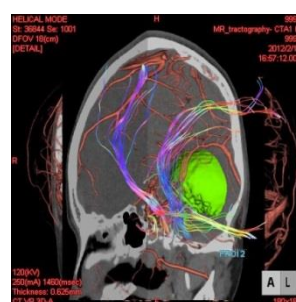
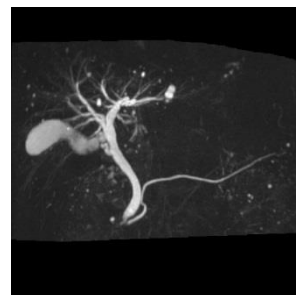
理 念

最新の知識と技術に基づき、
良質で信頼される医療を実践します。

MRI 装置 更新しました



「より質の高い画像提供をめざして格闘しています。」MRI更新担当スタッフ 3 名



新しい装置の磁場強度はこれまでと同じ 1.5 テスラですが、装置自体のスペックやデジタル技術の向上により、これまでの装置よりも全ての撮像領域において画質が向上し、その恩恵や新しい技術を利用してこれまでよりも短時間での検査が可能となりました。

これまでは、撮像不可能であった様々な領域の血管および神経イメージングや全身のがん検索などが侵襲性なくできることとなりクオリティの高い検査の提供が可能となります。

また、ソフト及びハードウェアの進歩により静音化撮像が可能となり、検査室内の開放性も向上しました。

当院は地域医療支援病院であるため、紹介患者に対する医療提供、高額医療機器の共同利用等を通じて、かかりつけ医等を支援させていただき、地域医療に貢献していきます。

「登録医」って何？ 地域医療支援病院の役割

検査や入院が必要な時、かかりつけ医からの紹介状により大きな病院で診療を受け、診断が確定したり症状が安定したら、また、紹介状でかかりつけ医に戻る仕組みを「地域医療連携」といいます。これは国が 2025 年を目途に構築を目指している「地域包括ケアシステム」の一部であり、大規模病院(400 床以上)やクリニック等の機能・役割分担を明確にしたものです。かかりつけ医の先生方が釧路労災病院の「登録医」となっていただくことにより、当院の開放型病床において共同で診察できるシステムがあります。登録医の先生と当院主治医が互いに患者さんの治療経過や検査結果等を把握でき、より地域医療連携をスムーズに行うことができます。患者さんにおきましても、かかりつけ医が共同で診察していただくことは大きな安心につながります。

当院はこのような地域医療連携の中核を担う「地域医療支援病院」の指定を受けています。地域医療支援病院とは、地域に必要な医療を確保する目的から、病院・診療所などの「かかりつけ医」を支援する病院です。当院は 160 施設 190 名(2019 年 1 月 1 日現在)の医師に登録していただいております。地域医療連携を積極的に推進しています。